



「Twitter 新たなコミュニケーションツール」(前編)



拝復 早いもので12月もあつという間に中旬。2009年の最後のNewsLetterになります。2000年代になって丸十年が過ぎようとしています。早いものですね。生きてきた時間よりも平均余命の方が遥かに短く

なっています 。一日一日を大切に生きなければ、と言いつける次第です。天候も朝晩はめっ

今年の冬、流行るらしい着ぐるみ型毛布(笑) →



さり冷え、電気敷布のお世話になっています。軟弱ですか?(笑) 今日曇っているせいか気温も余り上がりません。この季節だけはネクタイの存在がありがたい。ノータイでは首元から冷風が流れ込んで、体が冷えてしまうからです。

いい加減何とか分からせてよツイッター(T_T) →



さて、今年最後のNewsLetterですが、散々けちをつけている「Twitter」で締めようと思



←ITライターもイケメンの時代ですな^^

ます。最近、ITジャーナリストの津田大介さんの「Twitter 社会論」(洋泉社)740円(税抜き)という本を読みました。内容がコンパクトで非常に読みやすい。Twitterに関する書籍では分かりやすい入門者向けの本だと感じました。

この本の紹介を通じてこの新しいメディアについて考えていきたいと思います。あらかじめ申し上げておきますが、現在の私は「Twitter」にIDを持っておりますが、活動はまったくといっていいほどしていません。「Twitter」のよさがよく分からないからです(Twitterでのハンドルネームはryubon)^^;です。アカウントをお持ちの方どうぞ気軽にフォローしてみてください。文字通り何もしていませんから(笑)。で、論を進めたのですがとても一回分の分量には収まりません。今回は行く年来る年、越年企画として前編をお送りします。

まず一言で言えば、と言いたいのですが、なかなか難しい。12月13日付の日経新聞の記事を引用します。「WEB2.0、CGM、ソーシャル・メディア等、ネット上では多くのキーワードが流行している。最近、その具体的なサービスの一つとして「ツイッター (twitter)」が注目されている。

本当に他愛のないやり取りも多い →



ミニブログとも言われるツイッターでは140文字という制限の中で情報がやり取りされる。

「今から仕事に行く」「お昼ご飯どうしようかな」 **何気ない“つぶやき”が並ぶ**。自分のつぶやきを見てくれる（フォローしている）ユーザーが多ければ多いほど、たくさんのコメントがつく。極めてシンプルなサービスだ。

「新しい書き込みは、直ちに検索の対象となる。「議会でこんな審議が行われている」「今、地震がおきた」「彼はこんなことを考えている」「**政府軍の発砲が始まった**」（イラン）。既存のマスメディアよりも、グーグルやヤフーなどといった検索エンジンよりもリアルタイムの情報を知ることが出来る。」

分かりにくいと思うのですが、もう少し我慢をして読み進めてくださいな。まずこのメディアのスタートは2006年7月、以外に古い（笑）。それから3年。ユーザー数は推計で5000万人を超えています。前年同月比で10倍以上。まさに去年から一気にブレイクをしました。さらに現在では加速度がつき、来年には一億を超えるといわれています。この本の著者である津田さんも2007年からこのサービスを利用している。「Twitter」が一気にブレイクしたのは、2008年の米国大統領選挙。この選挙ではオバマ・マケイン両陣営ともウェブ上で選挙活動を展開しましたが、マケイン側がウェブを昔ながらの広告塔として使用した



←オバマさん。最悪のタイミングで大統領になりましたね(T_T)

のに対し、オバマ陣営 **は積極的に最新サービスを使用。Twitterはもちろん、SNSのマイスペース、FACEBOOK、YouTube** といったソーシャルメディアを活用し有権者と直接のコミュニケーションを図った。結局、**「オバマはインターネットがなければ大統領当選はありえなかった**」とも言われるほどネットを最大限活用することで広範な支持を集めた。オバマ陣営が優れていたのはネットのサービスごとの特性を理解し、それぞれのメディアで違った戦略を打ったことにある。リアルタイム性に優れる「Twitter」では演説予定やニュース番組などへの出演スケジュールを連日つぶやき、支持者のアテンションを高めた。こうして**情報リテラシーの高いユーザー**を草の根的に味方につけたオバマは、選挙期間中に300万人を超える個人からネットを通じたオンライン献金だけで5億ドル（ざっと450億円）を超える選挙資金を集めた。これは大統領選を通じて候補者が集めた選挙資金として史上最高の金額だと言う。

日本では公職選挙法に基づきネットを使った選挙活動が禁止されています（理由はよくわかりません）(T_T)。世界で最も強大な権力である米国大統領を決める選挙で「Twitter」が大活躍をした。このことはネット時代の世界の住人として生きる我々が認識をしておかなければならない、事実です。

さて、ではメディアとしての特徴を省みしてみる。津田氏は「Twitter」の価値として6つの特徴を取り上げている。

① リアルタイム性

これはそもそもユーザーが投稿を行う基点・モチベーションが、「Twitter」側からの「いまなにしている？」という間によってもたらされていると言うことが大きい。ユーザーが今の自分の状況を書き込

むことによってその「つぶやき」はタイムラインと呼ばれる WEB 上で共有される。何か起きた瞬間と、それが書かれた瞬間、そしてそれが誰かの目に触れる瞬間がほぼ同じタイミングのため、非常に現実社会への結びつきが強く感じられる。なんと言ったらいいか画面に向かって入力するとフォロワーされている人達には共通の情報が流れる（テレビの臨時ニュースのテロップ感覚です）。

「リアルタイム検索」の価値

投稿されたつぶやきはすぐさまデータベースに保存され検索ボックスから検索をすることが出来る。

検索結果は最新の結果から順番に羅列表示される。ここがGoogle と決定的に異なるポイント。グーグルは「ページランク」と呼ばれる仕組みにより多くのページからリンクされているページは価値の高いページであると判断し、ページの重み付の高い順番から表示をします。

- ② **強力な伝播力** フォロワーの多い人の発言などは瞬時に多くの一つに伝わる。デマだとしても。
- ③ **オープン性** 誰でも参加できるし誰をフォローするのも自由 機能はシンプルで軽い
- ④ **ゆるい空気感** SNS と異なりフォローするのに相手からの承認が一切必要ない。
- ⑤ **属人性が強い** ブログ以上に、リアルタイムでその人の考えていることや行動が分かってしまう。強い伝播力と柔軟な情報受発信によってユニークな行動や思考が多くのユーザーに伝わる。
- ⑥ **自由度が高い** 「Twitter」の使い方は自由であり、何の制約もない。

「Future of Media」会場での識者の発言

「人々がツイッターについて語ることをやめ、このような会議のパネリストに呼ばれることがなくなり、人々が電気のような公共インフラとしてツイッターを使用することになればそれが成功であると思う。単なる通信の一部として裏方へと消えて行く。我々はツイッターをメール、SNS、電話などあらゆる通信手段と同じレベルのものと考えており、ツイッターがそうなることを目指している」

ここまで書いたのですが、ある程度、本や友人に話を聞いて概要が分かっている私でさえ、分かりにくい、と感じます。上記でご紹介した「ネット上のコミュニケーションの一手段」と考えていただいた方がよろしいかと思います。詳しい使い方などは[ここ](#)をご覧ください。

さてアカウントを取ってみましょう。「Twitter」の画面では「いまどうしている？」と言う提携の質問が投げかけられます。さて、何をつぶやけばいいのでしょうか？分からないですよ。2 チャンネルじゃないし、140 字制限があるためブログのようにまとまった文章は書けない。津田さんも当初「未だにツイッターでの人間関係の距離感のつかみ方をはかりかねている。いつもはこういうネットサービスは大体自分なりの使い方を決めて割り切って使うだけだ」（始めて 4 日目のつぶやき）。やがて「日々の生活の中で思いついた提案や教訓、仕事をしていて知ったちょっとした豆知識などを積極的につぶやくようになった」これがツイッターの使用感を変えたきっかけになったと。当初想定しなかった「自分の思考を曖昧なまま「垂れ流す」ことで、自分のフォロワーと延々議論が始まったり、あるつぶやきを元にして初めて飲みに行った人から「この前のあのつぶやきよか

ったですね」って言われたり」気がつく暇さえあれば「つぶやき」「フォローし」しまいには5分に一回くらいの頻度で見に行ったり・・・

あれれ？これって何かに似ている。そう思い当たることがある。まるで SNS にはまった自分とまるで一緒じゃないか。ミクシィ類似の SNS でしたが、趣味人が集まる仮想空間。始めは友達もいないし活動は低調、「どうしたらいいの？」状態でした。やがて、友達が増え使い方を熱心に教えてくれるようになり。日記形式で様々なことを（趣味とは関係なくても）アップしていった（もちろん140字以上）。自分が書いた記事にレスが付く。これがなんともいえない快感。はまってしまっただけからはどっぷりでした。仕事中であろうがなんであろうが PC の前にいれば一時間に一回は見に行き、レスに対して再び返事を書いての繰り返し。疲れて飽きてやめました。今、「Twitter」にはまっている人を観察していると同じような傾向が見られます。しょっちゅう iPhone を取り出してチェックをしている。経済評論家の勝間和代さんも



←別に悪意はないんですが、こんなイラストが（笑）

そうらしい。「今、私、テーブルの上に iPhone を置いて時々いじっていますけど、これを嫌がる人って結構いますよね。」って、普通は嫌がるでしょ（笑）。目の前の人と自分と会話しながらツイッターを見て、レスしていたら失礼ですよ。一度はまったらどっぷりという麻薬的なコミュニケーションツールと言えそうです。ただ、ツイッターが SNS と違うところは、返事をしなくても返事をしなくてもいいことです。この点が新しいですね。

なんかちょいと見えてきたような気がします。現実的には、ある程度以上の PC リテラシーがないとできない（ケータイメールとは根本的に違うものです）。また始めたとしても自分にある程度（数百）のフォロワーがいないとメリットを享受できない。これは参入障壁が高い。「フォロワー制って仕組みは実は結構シビアな競争条件なんですよね。（中略）あるソフトを使うと、その人のつぶやきがどの程度人に読まれているのかが把握できてしまうんですよ。便利で使ってはいるものの、フォロワー数でその人の影響力が可視化されるのは結構厳しいなあとは思いますが」（勝間さん）なるほど！

はい、残念ながら今年はこちらまで。あまり長いと怒られますので^^；。新年号では「Twitter」がどんな使い方をされていて、ビジネスとどう結びつくのかを中心にお送りします。「Twitter」の運営会社は未だに売上（ビジネスモデル）がゼロです。ただ、投資会社からの資金で時価一兆円だそうです^^；

今年一年お世話になりましたm(_ _)m。何とかひもじい思いをせずに年を越せそうです。ただ、景気の先行きは相変わらず全く灯りが見えません。ドバイは何かアブダビが手を伸ばしたそうですが、欧米、特にイギリスの銀行は危ない。越年が懸念されます。年を越せないと、再び三番底を見ることになりそうです。来る年が皆様に取りましても素晴らしい年でありますように。ではっ！

株式会社アール・リサーチ 〒271-0051 千葉県松戸市馬橋 1896-1 ヴィレッジ K・I 馬橋 3F

Tel 047-342-3181 mobile 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp

<http://r-research.co.jp/> ブログ、毎日更新しています→<http://rresearch.blog103.fc2.com/>